

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1292200183 | | |
| 法人名 | 株式会社マザアス | | |
| 事業所名 | マザアスホームだんらん柏・増尾台 | | |
| 所在地 | 〒277-0052千葉県柏市増尾台2-31-70 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 26年 1月 31日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年3月25日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokkensaku.jp/127/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | NPO法人ヒューマン・ネットワーク | | |
| 所在地 | 千葉県船橋市丸山2丁目10番15号 | | |
| 訪問調査日 | 平成 26年 3月 6日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を図るため、町内会に入会し地域で行われている催事に参加。事業所でも地域のボランティアを招き披露してもらったり、取り組みの一部を紹介する場を持っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目の目標は「入居者が生き生きとして生活する」としており、利用者が楽しく過ごして、笑顔が見られる環境作りに努めている。利用者がレクリエーションのカルタを元気に読む、音楽療法で手話を歌に合わせて合唱する、ボランティアのフラダンスを觀賞、毎日の散歩に行く、近くのスーパーに買い物に出かけるなど、利用者の望むことに応じて楽しめるように、職員も笑顔を欠かさず接して適切な対応を行っている。また地域の行事では、中学校の催しで太鼓の演奏を聴く、餅つき大会、芋煮会、地域の施設が集まる「ふれあいの集い」に参加するなど楽しむ機会を多く設けている。施設で行う祭りにも地域の方が大勢参加して地域との交流が深まっており、施設の積極的な環境作りによる効果を物語っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | | 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | |
|-----|---|-----------------------------|---|-----|---|-----------------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、事務所、更衣室などに掲示し全職員が理念を共有、実践に繋げている。 | 目標は「入居者が生き生きとして生活をする」としている。職員は利用者が行いたいことをできるように工夫しており、カルタを読む、散歩に出るなど一緒に楽しみながら、笑顔が生まれるように努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町会に入会し地域の情報を定期的に取り、催事には入居者と参加している。地域の個人商店やスーパーを利用し顔なじみを作っている。 | 町会に加入して、中学校の催しで太鼓を聞いたり、餅つき大会、芋煮会、防災訓練などに参加している。また、施設で行う祭りには地域から大勢参加をしており地域との連携が緊密である。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の催事参加や、ホームの催事などで地域住民を招き交流を持つことで、認知症への理解に繋がるようにと取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一度会議を行っている。家族、入居者、民生委員、包括支援センター職員などからの質問や意見を聞きサービス向上に努めている。 | 運営推進会議は、6回開催の見込みである。施設からは利用者の状況と行事の内容などの報告を行い、行政からは入居の相談内容を聞いている。利用者からの質問で、他の施設サービスについて話し合っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 柏市グループホーム連絡会の会員になり市からの情報や意見を取り入れサービスの向上に繋げている。 | グループホーム連絡会の活動で、「ふれあいの集い」に参加して歌を聞くなど演芸を楽しんでいる。隔月の開催を利用して市内の施設を互いに見学するなど、交流の機会を設けるようにしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束とは何か基本的なことを職員間で共有し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。 | 職員は、「虐待の芽チエックリスト」により、自分の行動を振り返ることで身体拘束の理解を深めている。また、言葉使いで、声のトーンに気をつけて命令口調にならないように留意している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会に参加したり、人権擁護委員会のチェックを受け各人の行動の確認を会議の場で行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修などに参加、必要に応じて活用できるよう支援している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分な説明を行い、理解、納得が得られるように勤めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議を行い、家族、入居者の代表が参加し意見を直接聴く場を持っている。来館時、話の場を持ち要望や意見を言いやすい環境を作っている。 | 家族会は、クリスマス会、流しそーめんなど3回行い、家族の全員が参加している。施設からは「だんらん通信」に利用者一人ひとりの生活状況を写真に載せて知らせており、コミュニケーション作りを工夫して行っている。 | 家族会は計画的に実施されて多くの家族が参加している。今後実施した内容と家族の感想などを記録するようよう期待する。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回以上の会議を行い、意見や提案を聞く機会を持ち、それを管理者会議の検討事項に加えるなど、職員の意見や提案を反映させている。 | 毎月のミーティングでは、委員会活動内容の説明と利用者の状況などを話し合っている。職員からは休憩を取る際に、利用者の不安感を招かないように工夫をするなどの意見があり、運営に反映している。 | 本部の行う研修に参加している他、施設での研修は1回実施している。今後は施設独自の研修を計画的に行い、職員の更なるレベル向上を期待する。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回職員と面談する機会を持っている。今年度は日々の目標を持って働く事を念頭に掲げた。面談で評価など行っていく。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 資格試験制度を定め、合格祝い金を支給している。試験対策講習会などを開催、勤務上でも出来る限りの配慮をしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市のグループホーム協議会の会員となり、同業者との情報交換、研修会、交流会など行っている。また社内のグループホーム4ヶ所で勉強会を行いサービスの向上に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス導入前に面接を行い、本人の希望や要望、不安な事などに耳を傾け、安心できる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前から、話を伺い信頼される関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面接段階で話を聴き、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常の会話から生活の知恵を教わることや、家事など手伝ってもらうなど、共に支え合う関係を構築している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の気持ちに家族も一緒に寄り添い、不安が緩和できるよう外食や外出などの協力を貰っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人や場との関係が途切れないよう、家族の協力を貰いながら支援に努めている。 | 友達が訪れてきて施設での生活状況など利用者と話し合っている。また、施設の近くにはスーパーや軽食などのお店があり、気軽に出かけて楽しんでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常生活の中で自然に構築される入居者同士の関係を重視し、把握するよう心がけている。良い関係が保たれるよう、必要に応じて職員が間に入るなどもしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用が終了しても必要に応じて、本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 思いや希望、意向を本人に尋ねる事や、日常の言動に注目して記録に残し、その経過を振り返り、一人ひとりの思いや希望などの把握に努めている。 | 施設を利用の際にアセスメントで23項目について状況を詳細に把握している。「ICFシート」6項目に分類してから、「私の姿と気持ちシート」「私のわかること・わからないことシート」にまとめて必要に応じて支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族、知人などに話を聴き、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の生活の中で食事や水分摂取状況、バイタル、言動、様子の変化を観察、心身状態の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアプランの見直し、毎月(時に随時)入居者に関する話し合いを行い、課題と評価を繰り返し行っている。本人、家族、主治医などに相談、話し合いながら現状に即した介護計画を作成している。 | 介護計画[1]・[2]を作成後に、「目標計画表」で個別のサービスについて、着替えの声かけをする、入浴介助の注意点などを詳細に整理して適切な対応を行うようにしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の記録を行い、毎日の申し送りや毎月カンファレンスを行い現状の情報を共有。個別処遇の評価を定期的に行い経過観察の必要性を職員間の共通認識としている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人のニーズに合わせて出来る限り勤務形態の変更、居室内の環境整備など柔軟な対応を心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣のスーパーに毎日、買物に行き顔なじみになる。地域のイベントへの参加。必要に応じてボランティアの協力を得ている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携の協力医と連携。入居の際、家族の同意を頂き、契約。月2回の往診、緊急時の連携あり。また、歯科医の往診が受けられている。 | 入居時に家族の同意を得て、提携協力医を主治医としている。但し精神科は家族対応で受診し、その結果は主治医に伝えとともに職員に伝達・申し送りし情報共有している。そして主治医は月2回、歯科医は週1回の往診がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の訪看。入居者の様子を伝え、適切な対応を相談。主治医や薬剤師との協力体制がとれている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院関係者、本人、家族と十分な話し合いと情報交換に努め、連携を密にとり退院に備え、退院後は提携医に繋いでいる。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期を迎えた入居者は現在はいない。状態の変化が生じた場合、家族、主治医、職員で密に話し合いを持ち方針を共有する。 | 重度化や終末期への方針は利用前に利用者・家族から意向を確認し、施設で対応できる範囲を説明するとともに可能な限り施設での生活を継続することを基本としている。そして看取り対応はできないことを早い段階から話し合い、主治医と相談して病院紹介する旨の理解を得ている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時の初期対応ができるようミーティング等で話し合いを持っている。救急車要請の仕方、連絡網を見えるところに表示。救命救急の講習会に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災訓練を年3回行っている。地域の防災訓練に参加し、協力体制をとっている。 | 併設の小規模施設と共同で3回防災訓練を実施し、2回は消防署立会いで避難訓練しており、夜間想定訓練も実施している。避難経路・避難場所等一覧表にして廊下に貼り、職員共有している。また災害に備えた備蓄もある。 | 災害時に地域の協力を得られるよう同経営隣接とともに町会との話し合いをすすめ、具体的な協力体制を得られるような取組を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシー保護に関する研修は、新人研修から継続して実施している。言葉かけについては、敬う気持ちを持つよう注意し指導している。 | 言葉かけは命令口調にならないよう常に利用者の目線で考え、一人ひとりのリズムに合わせて寄り添い支援している。そして独自の「虐待の芽チェック」で自己反省し、プライバシーを損ねない介助に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定が出来るよう支援している。希望があれば、個別に話を聞く時間を設けている。本人が思いを表現できるよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の身体状況、精神状況、本人の希望に合わせて、ペースに合った過ごし方を個別に支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の意見を尊重し、その人らしい装いが出来るよう、衣類を選ぶ、化粧をする時、出来ない部分を支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | メインの献立は職員が決めているが、副菜は入居者と買物をしながら、冷蔵庫を見ながら相談し決めている。準備、片付けを一緒にしている。 | 献立は職員が決めているが、副菜は近くのスーパーに利用者も一緒に出かけ、葉物野菜等手に取って品定めて選んでいる。そして半数近くの利用者は包丁を使ったり、炒めものを手伝ったり、配・下膳をし片づけたりしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食べやすい形態にしたり、食が進むよう好みのものを提供している。水分は1200cc～1500ccを目安にしチェック表でチェックしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、歯磨きの声かけをし必要な方には介助を行っている。口腔内の状態により、歯科医に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 生活の中で、それぞれのパターンをつかみ声掛け、誘導、介助と必要な支援を行っている。 | 利用者の落ち着かない動き、キョロキョロ草、パターン等を把握し、水分摂取量・排泄リズムを確認して声掛け、トイレ誘導している。そしてリハビリパンツから布パンツに改善された利用者が3名おり、自立に向けた支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事量、水分量のチェックと排便確認を行っている。体操、散歩などの運動の機会を持ち、便秘予防のための食材の工夫をしている。排便コントロールの研修に参加。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回以上入浴が出来ることを目安にして、それぞれの状態やタイミングに合わせて、支援している。 | 基本的には週2回以上の入浴を目安にしている。日中の入浴拒否者には職員の勤務時間変更で対応したり、声掛けの工夫により利用者全員が入浴可能である。また汚れた時は随時シャワー浴・入浴を追加し、清潔保持に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | それぞれの睡眠パターンを把握し、本人の希望の時間に休むことが出来るよう支援している。日中の休息は本人の希望で行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者別に処方されている薬の副作用、効能についてファイルし常に見ることが出来る場所に保管。副作用を理解したうえで支援している。服薬後の変化も確認するよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | それぞれ出来る事の継続を支援している。外食・日々の買物、散歩、地域のイベント、だんらんのイベントなどで気分転換をはかるよう努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 気分転換に散歩に出かけている。日々の買物には本人の希望で毎日出かけている入居者もいる。ピクニックや外食、ショッピングなども毎月取り入れている。 | 近隣の防災公園に花を見に出かける、ニュータウンを1周する、施設の庭を見て歩くなど、利用者の体調に考慮しながら支援している。また近くのスーパーに買物に出かけたり、毎月、梅見物・花見・イチゴ狩り・ピクニック・外食等のイベントを実施して楽しい外出としている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人の希望に応じて家族と相談のうえ、お金を所持し買物時に使えるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望があれば取次ぎなどの支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 各居室は、起床時に窓を開け換気を行っている。毎日の掃除は入居者と共に行っている。季節に合わせた飾りつけや入居者の作品、イベント時の写真を飾り、心地よく過ごせるよう心がけている。又、乾燥の時期は加湿器を設置、室温、湿度の調整を随時行っている。 | 玄関には折り紙で作った雛飾りが季節に合わせて飾られ、吊るし雛ののれんをくぐったリビングには利用者・職員の顔写真、絵、紅葉した葉の造形等壁に沿って飾られている。毎日、利用者・職員一緒に掃除したリビングは清潔で明るく生活感のある空間づくりがなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングで入居者同士が心地よく過ごせるよう配慮している。くつろげるソファがあり、ゆったりと座り新聞を読んだり、テレビを観たり、居眠りが出来る。畑前のベンチでは野菜を収穫しながら、談話できるようになっている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室内はベット、クローゼット以外は持ち込み自由になっており、馴染みの家具、調度品がおけるようになっている。希望に応じて備え付けのエアコン、照明のリモコンを設置している。 | 居室の入口には利用者ごとに色の異なる手作りの造花・飾り物が掛けられ、自分の居室と認識できるよう工夫されている。そして馴染みのテレビ・ソファ・鏡台・ティベアのぬいぐるみ等持ち込み心地よく過ごせるよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレにはプレートをつけ引き戸で開閉のしやすい扉にしている。居室入り口には表札と写真をつけわかりやすくしている。併設の施設との行き来が自由である。 | | |